

④ 第4委員会

「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」



それでは、第4委員会の意見を発表します。

第4委員会のテーマは、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」です。このテーマについて考えるため、私たちは、7月25日に東谷山フルーツパークの施設見学を行いました。

そこで、私たちは、いろいろな果物を展示して伝えていたり、収穫体験をしてもらうことで、果物をつくる時の工夫や手間がわかるようにしているところを見ました。そして、虫たちが果物を支えて成り立ち、その後、フルーツパークの人によって苦勞して育て、その果物をフルーツパークに来た人が収穫を体験し、その収穫した果物を育ててくれた人に感謝しながら食べたらいいということがわかりました。

その後、私たちは、施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

僕は、今回果物をつくってくれる人の工夫や手間をかけてつくっていること、ミツバチなどの虫のおかげで受粉ができるということなどを知ってもらえばいいと思いました。

そのためにもっと名古屋に農業パークをふやしたほうがいいと思いました。そして、食べ物をつくってくれる人への感謝かんしゃができて、食べ物を大切にできる名古屋にしたいです。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

私は、生き物や植物だけでなく、ほかの文房具ぶんぼうぐや車なども大切にするといいと思います。ほかのいろいろなものも大切にすることで人のことも大切にでき、そして人への思いやりの心をつくることできると思います。そして、いろいろなものを大切にすることから、人や人とのかかわりを大切にできるとてもすてきな人間になれると思います。これが名古屋市全体に広がることで、名古屋市自体もすてきになると思います。なので、私はまず生き物や植物を大切にするために、育ててくれた人の工夫、手間、ありがたさを一人一人が改めて感じることで、このようにすてきな名古屋市になると思います。なので、まずはこれはどうしてここにあるのか、誰だれが育ててくれて、誰だれがかかっているのかをよく考えたりして使用、食べたりするといいと思いました。なので、最初は感謝かんしゃをすることを名古屋市で広げ、そこからほかのものまで広げていくことで、思いやりのあふれるまちまで広がり、とてもすてきになると思いました。

○子ども議員

僕は、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするには、自然を少しでも残し、自然を壊さないようにすることだと思います。例えば、林や森を守る体験館などをつくり、自然に親しんでもらうことです。

また、名古屋市内でだけではなく、名古屋の水道を支えていく木曾川の上流の林や森を守る活動を、市民に負担をかけずに親しんでもらうこと、それから生き物園などをつくって、大事に扱うようにすれば、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にできると思います。

○子ども議員

僕が見学で印象に残ったことは、ミツバチの展示です。ミツバチは植物の受粉の手助けをしてくれる重要な生物です。しかし、そのミツバチは年々数が減ってきています。このミツバチが絶滅してしまうと、植物がなくなり、植物を食べる動物もいなくなります。やがて人間もいなくなってしまうと思います。

なので、僕はこの状況をみんなに知ってもらい、植物をふやし、ミツバチをふやしていき、最終的に人間の数もふやしていく。このようにして世の中を生き物でいっぱい自然に親しめるまちにしようと思いました。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

僕は、この施設見学で感じたことは、土地の違いもありますが、都心部と東谷山フルーツパークとでは、木や森などの緑の量や生き物の違いがあります。僕は都心部に住んでいる人でも手軽に行ける東谷山フルーツパークのような施設が必要だと考えました。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

守山区には、東谷山フルーツパークという自然に親しめるところがあります。ですが、改善すべきところもあります。例えばバス停がフルーツパークから遠いということです。

バス停が東谷山の麓にあるため、子どもやお年寄りだと20分以上歩かなければいけません。だから、バスを山頂まで走らせればよいと思います。また、東谷山にはリスが多いので、観察会を行ったり近くのサイエンスパークとコラボイベントを行えば、もっとお客さんが来て、自然に親しんでもらえると思います。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

僕は、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために、もっと身近に自然に触れることができる施設をつくるのがいいと思います。僕は東谷山フルーツパークへ行って、世界のさまざまな果物に触れることができました。ブルーベリーの収穫を通じて、自然の恵みを楽しむことができました。例えば科学館のような自然館なんかはどうでしょうか。広大な敷地のない町なかでも自然に触れ、楽しむことができる施設がふえるといいなと思いました。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

私は、東谷山フルーツパークの施設見学をして、フルーツパークの人は雑草抜きをしたり余分な枝をとったりと、たくさんの工夫や手間をかけていることを学びました。

このようにしてたくさんの手間・工夫をして安全なフルーツをつくることで、安心してフルーツを食べられると思います。なので、食べ物に対しての不安がなくなり、名古屋に住んでいる人全員が安心しておいしくフルーツを食べられるので、フルーツパークの人に感謝して食べようと思います。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

僕は、東谷山フルーツパークに施設見学に行き、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするには、三つの農業パーク以外にも、名古屋西に農業パークをつくるといいと思います。なぜかという、名古屋西には農業パークがなく、たくさんの人に工夫や手間がかかっているのを知ってもらうために、名古屋各所に要るからです。新しい農業パークには、野菜や果物を自分で育てて、収穫できるようにすると思います。また、愛知県産の農産物を使ったバイキングをつくりたいと思います。愛知県産の野菜や果物を食べてもらうことにより、農産物を好きになってもらえるからです。

○子ども議員

私は、片道40分と書いてあってとても遠いんだなと思ってびっくりしました。昨年の子ども市会の際にはなかった封筒が届いて、その中にアレルギー調査の紙が入っていました。

温室が古墳の形になっていると教えてもらいました。ブルーベリーの収穫体験が少ない時間しかできなくて残念でした。お土産にバナナの茎でつくったしおりをもらいました。

「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには、東谷山フルーツパークのようところがふえるといいと思いました。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

私は、東谷山フルーツパークに行ったことで、自然に親しむことができ、生き物の大切さを知りました。生き物が減ってもだめだし、植物が減ってもだめ、よいバランスをどちらとも保たなければなりません。例えばミツバチは花の花粉をとります。ミツバチが花粉を食べ、花粉を巣に運ぶときに、花粉を少しずつ落としていきます。こうして動けない植物は受粉をしているのです。このように植物と生き物は関連して生きていることを知りました。蜂は好きではなかったけれど、自然や生き物を大切にしようと思いました。このように体験できたりする場所に行き、すごくいい経験になったので、皆さんも行ってみてください。

○子ども議員

第4委員会の子ども議員です。

私は、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには、生き物が生きていける環境をつくるのが大切だと思います。

なので、まちの人に環境に悪いことをしないように呼びかけたりして、自然を守っていきたいです。

そして、自然や生き物と親しむことができることを多くの人に広げていきたいです。自然や生き物と触れ合える施設をつくるのもいいと思います。

わたし
私たち第4委員会は、このようなことが、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために必要だと考えました。
これで、第4委員会の発表を終わります。

■ おかだ岡田とうべん土木交通委員長の答弁

第4委員会の子ども委員のみなさん、とてもすばらしい感想とたくさんていあんの提案をいただきました。ありがとうございます。

第4委員会では「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」というテーマについて考えるために、東谷山フルーツパークに行きました。施設見学しせつを通して、ふだん知らなふくい果物のことや、虫たちの手助けも含めてさまざまな手間をかけながら果物が育てられて、わたし私たちの食卓じょくたくに届いているということを知って、かんしゃ感謝して食べなければいけないという感想を持たれたと思います。

そうした体験から、今回のテーマである「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために何ができるか、子ども委員長、子ども副委員長を初め、みな皆さんからいただいたていあん提案をまとめてみました。

一つは、収穫体験しゅうかくができて、学習できる東谷山フルーツパークを多くの人に広めること。さらにこういうような施設しせつがもっとあるといいなというていあん提案をいただきました。具体的には、天白区に農業センターがあって、港区に農業文化園があるので、西のほうにも農業パークをつくるといいというていあん提案がありました。また、科学館のように自然館のようなものはどうでしょうかというていあん提案もありました。

名古屋という都会であっても、果物の成り立ちから収穫しゅうかくまで、さい実際に体験して学べる場所というのは都心からちょっと離はなれていますが、名古屋で一番高い東谷山という自然があることでできるという、こういうすばらしいところがあります。



この自然をしっかりと守って多くの人に知ってもらおうということは、
私たちの大事な仕事ですので、これからしっかりと取り組んでいき
たいと思います。

もっとこんな施設が欲しいと、ふやしたい、本当にそう思います。
大きな施設ではなくても、例えば市民農園がありますので、市民果
樹園ができたらいいな、そんなことも考えてみたいと思います。

二つ目は、体験を通して生き物や果物だけでなく、人や物を大切
にすることにつながるという意見がありました。そうすれば、思い
やりのある、あふれる名古屋になるという指摘です。

木曾川の水源の林や森を守る活動、やったらいいなという提案が
ありました。これは名古屋市の上水道局が夏休みに、「木曾川さん
ありがとう」というイベントをやっています。小学生対象ですので、
御紹介しておきたいと思います。

自然に触れ合うことは、季節を感じたり手間や時間をかけて自然
を大切にしようと、そういう心を育みます。これは物を大切にしよ
うという、人にも優しくしようという心を育てることにもなります
ので、皆さんの意見や提案をいただいて、私たちも名古屋の市政に
生かしていきたいと思います。これから秋にかけて梨やリンゴや柿
が収穫できます。春先の果樹園のお花見にも来ていただきたいし、
お庭とかベランダで果物はできませんかと、そんな相談をフルーツ
パークでもしていただければと思います。

最後になりますけれども、3日間一緒に勉強させていただきました
土居副委員長、沢田副委員長、そして教育委員会の塩澤先生、そ
して東谷山フルーツパークの職員の皆さんとともに、子ども委員の
皆さんに感謝を申し上げまして、答弁にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

